

庁 議 録

| | | | | | | | | |
|---------------------|----------------------|--|--------------|---------|---|----|---------|---|
| 招集年月日 | 平成 25 年 5 月 15 日 (水) | | | | | | | |
| 開会時刻 | 午前 10 時 05 分 | 閉会時刻 | 午前 11 時 50 分 | | | | | |
| 開催場所 | 庁議室 | | | | | | | |
| 出席の状況 (○出席者、代は代理出席) | | | | | | | | |
| 1 | 市長 | ○ | 2 | 副市長 | ○ | 3 | 教育長 | — |
| 4 | 総務部長 | ○ | 5 | 直轄理事 | ○ | 6 | 財務部長 | ○ |
| 7 | 市民生活部長 | ○ | 8 | 理事兼政策監 | ○ | 9 | 健康福祉部長 | ○ |
| 10 | 産業部長 | ○ | 11 | 建設部長 | ○ | 12 | 上下水道部長 | ○ |
| 13 | 教育部長 | ○ | 14 | こども部長 | ○ | 15 | 伊達総合支所長 | ○ |
| 16 | 梁川総合支所長 | ○ | 17 | 保原総合支所長 | ○ | 18 | 霊山総合支所長 | ○ |
| 19 | 月舘総合支所長 | ○ | 20 | 議会事務局長 | 代 | 21 | 会計管理者 | ○ |
| 代理出席者 | | 議会事務局次長 | | | | | | |
| 職務のため出席した者 | | 健康福祉部次長、産業部次長、総合政策課長、健幸都市推進室長、総務課長、人事課長、秘書広報課長、財政課長 | | | | | | |
| 案件説明のため出席した者 | | 環境防災課長 | | | | | | |
| 付 議 事 案 協 議 事 項 | | <p>1. 議題</p> <p>(1) 第 3 回伊達市議会定例会提出議案について 【総務部】</p> <p>(2) 伊達市健幸都市基本条例 (案) について 【市長直轄】</p> | | | | | | |

庁 議 の 内 容（協議経過、結論等）

1. 議題

(1) 第3回伊達市議会定例会提出議案について 【総務部】

総務部長から提出案件の概要説明があった後、各部長が提出議案について説明した。

No.15～No.17

市長 自立支援法と総合支援法の相違点、新法の趣旨について説明されたい。

健康福祉部長 発達障害を含めた難病と地域生活支援（福祉サービス）事業が追加された。資料を作成し説明したい。

No.18

市長 国保の減免は勸奨地点のみということだが、昨年12月の指定解除以来、コミュニティの再構築に努力しているところであり、国保税の減免については、慎重に対応されたい。

健康福祉部長 9月議会で財政的な措置があれば対応する旨答弁している。

財務部長 県に対しても伊達市の現状、姿勢を示している。3月全員協議会にも県が制度をつくった場合には実施する旨説明している。

市長 3月で通学支援を終了した事実もあるが、市独自の支援もやっていかなければならない。市民の無用な感情的対立を緩和する方向に努力することが我々のあるべき姿である。政治的判断となる。十分に検討されたい。

No.10

市長 インフルエンザ対策本部を「つくる」ということか「つくれる」ということか。

健康福祉部長 設置条例をつくらなければならないと理解している。詳細は報告する。

(2) 健幸都市基本計画について 【市長直轄】

直轄理事が、6月議会上程する基本条例の概要について説明した。

2 その他

(1) 施策提案プロジェクトチーム員募集について

【総務部】

(2) 地理空間情報の利活用に係る説明会について

【建設部】

(3) 特別職主要業務予定について（5月下半期）

(4) その他

- ・ 災害情報メール配信について（環境防災課長）
- ・ 防災マップについて（環境防災課長）
- ・ 統計情報の活用について（総務部長）
- ・ 2013 チャレンジデーについて（直轄理事）
- ・ 河川クリーンアップについて（建設部長）
- ・ 移動教室報告書について（教育部長）

市長発言要旨

先週、公務で東京に行った折に、銀座にある（株）クロサワと墨田区の山口産業を訪問してきたので、その話をしておきたい。

（株）クロサワは、現在の富士通アイソテックの前進一黒沢通信のオーナーで、銀座の一等地にビルを構え、ドコモショップ等手広く事業を展開している。社長が、福島との縁を大事にされる方で、社会還元をしたいという意向で、伊達市から高校生2名を採用してもらった。そのお礼を兼ねた訪問であった。同社は、社員の育成プログラムにも力を入れているとのことで感心してきた。

墨田区の山口産業は、なめし皮の工場で、「いのししの皮」でまちおこしをやらうという月舘地域の地域おこし支援員の伊藤君に、KFBの番組クルーが同行していたもの。若い経営者で、業界のリーダー的存在とのこと。工場の拡張も検討しているとのことで、伊達市への進出をお願いしてきた。企業誘致については、近代的な産業もいいが、ローテクで人手のかかるような産業も雇用の面では良いのではないかと考える。

話題は変わるが、先程、チャレンジデーで対戦する南城市長とテレビ電話で対談した。南城市は、人口4万人、財政規模186億円、平成18年合併、SWCに加盟予定等、本市との共通事項も多い。「心癒すウェルネスな旅」がキャッチフレーズ、3万人の観光客が200万人になったとのこと。これを契機として、南城市とも交流をしていきたい。

昨日、仙台でのIBMリーダーズ・フォーラムに招待され出席してきた。IT技術を使って、いわゆるビッグデータを解析することが可能になってきたという。政府も京の100倍の性能を持つスパコンの開発に着手するとの報道もあった。我々に関係するのは医療データをどう使いこなすかということ。それは、SWCの基本的な考え方でもある。要するに医療データと運動量との関連性を見つけていくことが可能になってくるということ。

そこでこの記事を読んでほしい。（産経新聞5/9）広島県が企業に「がん検診」を勧めるために費用対効果を試算したという記事だが、我々行政も、同じサービスを提供するのであれば、費用対効果という観点を持って取り組んでもらいたいものである。

